



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



平成 14 年度卒業記念制作「トーテムポール」について

－ Change (変革), Challenge (挑戦), Continue (継続) －

朝夕、本当に涼しくなってきました。日曜日は、二十四節気という「霜降(そうこう)」でした。朝霜が見え始める頃ということになります。秋は一日一日と深まり、冬の足音、兆しを感じられる頃となりました。

さて、10月23日(日)、北播小学生陸上競技記録会が三木市防災公園陸上競技場で行われました。よい天候に恵まれ、とても暑い一日となりました。令和4年度の陸上競技大会の単距離部門での最終の大会となりました。中番小学校から出場した子供達も自分の力を出しきり、見事な成績を収めてくれました。コロナ禍のことがあり、ここ2年間は大会参加の人数も少なくなっていました。今年、少し人数の方も増えた印象でした。やっぱり、元気な子供達の一生懸命な姿を見ることは大変嬉しいものです。「走・跳・投」と子供達の躍動する姿は、見る者に元気を与えてくれます。子供達の競技場での姿は、本当に素晴らしく、とても輝いていました。

さあ、10月も残すところ、あと一週間となってきました。先日、朝、校門で見守り隊の方と話をしていた時、私達大人は、一日、一日が本当に早く過ぎていく感じがするなあというような話をしていました。その時、近くにいた子供達の中の一人が、「毎日、毎日、長いなあ〜。」というような話をしていました。同じように流れている時間でも、子供と大人では感じ方が全く違うことに改めて気づかされました。以前、「子供達は日々、新しいことに出会っている。非常に多くの情報を得て、たくさんの新しい体験をする。だから、一日がとても長く感じるのです。」という話を聞いたことがあります。なるほど、子供達は、日々、新しいことに出会っています。学習で、遊びで、生活で、昨日とは違う、同じことでもその時間や場所、そ

の関係性において、同じようなことでもきっと少しずつ感じるものが違っているのかもしれませんが、それに比べると、大人は新しい経験や体験が少なくなっているということだと思います。少しぐらいの違いには鈍感になってしまっているのかもしれませんがね。小さな変化にも気づける大人でありたいものです。

ところで、保護者の皆さんは、運動場の芝生広場の北、フェンス沿いの「トーテムポール」をご存じでしょうか。「トーテムポール」とは、北アメリカの先住民に由来するものです。動物や人の顔などが積み重なるように彫刻された、とてもインパクトのある柱です。そして、大変芸術的なものです。中番小学校にあるものは、平成14年度卒業生の皆さんが卒業記念制作として作られたものです。そのトーテムポールの劣化が激しく、地面近くの根本のところはかなり剥がれ、細くなってしまうております。倒れる等、もしものことがあってはいけけないので、現在はロープで囲み、子供達が立ち入らないようにしております。ただ、とても大切な卒業記念制作ですので、卒業生の皆様お一人お一人の思いもあるかと思っておりますので、簡単に処分するということではできないと考えております。しかし、児童の安全を考えるとこのままという訳にもいかないのが実のところ。そこで、このことを広く校区の皆様にお知らせした上で、来年1月を目途に処理の方向で考えております。このことについては、学校だよりの11月号にも掲載し、中番小学校区の方々にも広くお知らせしたいと考えております。しかし、校区におられない卒業生の皆様には、このことをお知らせすることが難しい面もございますので、平成14年度卒業生の保護者の方々、お知り合いの方々、ご友人の方々を通して、広くお知らせいただければ大変嬉しく思います。また、このことについて何かございましたら遠慮なくご連絡くださいますようよろしくお願い申し上げます。

中番小学校は、児童にとって、「明日も行きたい! 学びたい! 学校」を目指し、日々の取り組みを充実させ、共に歩んでいきたいと願っております。